

人間の墮落①

FilJap 小学生部

* 目次 *

■ 二つの心

- 良い心と悪い心
- 二つの心はなぜ生まれたのか

■ 人間始祖の墮落

- 神様のいましめ
- 善悪の実
- 生命の木と善悪を知る木
- 神様のみむねと人間の責任



■二つの心

●良い心と悪い心

人間は、心と体からできています。心によって体が動きます。心には、良い心と悪い心があります。良い心をもつと、良い行いをするようになります。悪い心をもつと、悪い行いをするようになります。私たちは、良いことを善といい、悪いことを惡といいます。善男善女は、良い男女という意味で、惡党は悪い人という意味です。

『原理講論』では、良い心を本心と良心といい、悪い心を邪心といいます。したがって、良心は善なる心で、邪心は惡なる心です。そして、私たちにはこのような二つの心がともにあります。

例えば、学校の運動場に時計が落ちていたとします。「だれが時計をなくしたのだろう？ 持ち主を探さなくては」と考え、その持ち主を探してあげることもできます。それとは反対に、その時計を自分のものにしたくて、こっそりポケットに入れて家に持ち帰ることもできます。持ち主を探そうとする心は良い心で、こっそりもらってしまうとする心は悪い心です。

一人の人間の中に、二つの心があれば、二つの心はたがいに反対の



方に体を引っぱっていきますが、邪心は、私たちを悪い道に引っぱっていきます。 4

良い道は愛の心で、悪い道はにくみの心でもあります。愛の心は善なる心で、にくみの心は悪なる心です。

この二つの心のせいで、私たちはしばしば悩みます。はじめから悪い心がなければどれだけよいでしょうか。私たちに、正しく良い心だけあれば、どれだけ楽しいでしょうか。神様は愛の心で私たちをつくられたのに、私たちにはなぜ、愛の心だけではなく、にくみの心もあるのでしょうか。

●二つの心はなぜ生まれたのか

この世界をつくられ、治めていらっしゃる方は神様です。神様は、すべてのことを知っておられ、できないことがありません。そして神様は悪いことはなされません。神様は善なる方だからです。

したがって、神様は悪をつくられず、はじめからまちがった人間をつくられもしませんでした。

本来、神様がつくられた世界は、善良で美しい世界でした。人間もはじめは善良で美しい心だけをもっていました。

しかし、善良につくられた人間始祖が、最初に成長し完成する途上で



過ちを犯し、悪い心をもつようになったのです。

5

悪い心は、もともとの良い心、神様の愛の心を見えなくします。

ここに、すんだ池があるとしましょう。水がきれいなので、その中で泳いでいる魚がよく見えるはずです。しかし、洪水が起り、よごれたものが入ってきて水がにごると、魚の姿が見えなくなってしまいます。すんだ水は、神様がはじめにつくられたもので、その中で生きて動いている魚は、神様の心だといえます。私たちが過ちを犯して水をよごせば、神様の心を見ることができなくなります。

私たちが犯した過ちは、そのように神様の心を見えなくさせました。私たちの過ちのために、神様を見ることのできない、悪い心が生まれたのです。いったい人間は、どのような過ちを犯して、二つの心を持つようになったのでしょうか。



●神様のいましめ

人間がそのように、二つの心をもつようになった理由とは何でしょうか？聖書はその理由を、人間始祖の墮落のためだと教えてています。墮落とは、本来あるべき正しい姿を失って悪くなるという意味です。

はじめに神様は、アダムとエバをつくられて、彼らがエデンの園に住むようにされました。彼らが必要なすべてのものをくださり、それらを良く治め、守るようにされました。神様は彼らに、園にあるすべての果物を食べてよいとされましたが、善惡の実だけは、とて食べるなどおっしゃいました。万一、とて食べたら、必ず死ぬことになると言われました。

しかし、蛇がエバに、「その実を食べても、あなた方は死にませんよ。それを食べると、あなた方の目は神様のように開けて、神様のようになるのですよ」と言いました。エバは、その実が食べるによく、目には美しく、賢くなるには好ましそうに見えました。エバは神様のみ言を忘れて、善惡の実を食べ、そのあとで



アダムにも食べさせました。

7

善悪の実を食べた二人は、悪を知るようになりました。彼らは、自分がはだかでいることが恥ずかしくなり、木の葉でかくしました。善悪の実を食べる前には、恥ずかしさや照れというものを知らなかったのに、今はそのようなことを知るようになりました。こうして彼らに、悪い心が入り込んでしまったのです。彼らは、神様のみ言にさからったので、エデンの園から追い出されてしまいました。

● 善悪の実

聖書は、私たちが良い心と悪い心の二つをもつようになった理由を、そのように説明しています。善悪の実をとて食べる事によって、アダムとエバは神様のみ言を守れずに、過ちを犯してしまいました。これを原罪といいます。原罪とは、人間始祖が犯した罪ということです。原罪は、私たちが犯したあらゆる罪の根になるものもあります。したがって、私たちが過ちを犯さずに、正しく生きるためにには、原罪をなくさなければなりません。善悪の実を食べる前にもどらなくてはならないのです。

これは、可能なことでしょうか？私たちの先祖が、ずっと昔にとて食べたものを、私たちがどうやって



元どおりにすることができるでしょうか？ところで、善惡の実とはいったい何でしょうか？リンゴや 8 ナシのように、実さいに人間が食べられる果物なのでしょうか？初めの人間が食べた果物のせいで、



今日の私たち子孫にまで、罪がひきつがれているというのは、どこか変です。ですから、善惡の実とは、ただの果物ではなく、何か他の意味がかくされている、例えであると言えるでしょう。それはいったい何でしょうか？

●生命の木と善惡を知る木

エデンの園には、善惡を知る木とともに、生命の木がありました。生命の木が何であるかを知れば、善惡の木が何か分かるはずです。

それではまず、生命の木が何を意味するのか考えてみましょう。生命の木は、望みの木です。アダムも生命の木になることを望んでいました。彼は、たしかに神様がつくられた初めの人間でしたが、成長し完成して、神様の祝福を受ける前には、何かが足りませんでした。アダムに足りなかつたのは、神様が願われた真実の愛でした。アダムが罪を犯した後、神様は炎の剣で生命の木に向かう道を

ふさいでしました。これは、アダムの望みが生命の木になることであったということを表しています。

それでは、まだ完成されていないアダムの望みは、何だったのでしょうか？それは、神様が願われた高い愛をもつた、完成した男性になることです。このように、エデンの園にある二つの木のうち生命の木は、完成した男性、つまり完成したアダムを意味する言葉です。

そうだとすれば、善悪を知る木は何でしょうか？善悪を知る木は、生命の木とペアになっています。生命の木が、完成したアダムを意味するなら、善悪を知る木は、完成したエバを意味するといえます。ですから、善悪の実を食べたということは、エバが完成する前の未熟な時に墮落したという意味です。善悪の実とは、善なる行動をすれば善なる実をならせ、悪なる行動をすれば悪なる実をならせる木の実であるということです。

実は種をまきちらして繁殖します。エバも女であるので、子女を



生みます。しかしエバは、神様の善なる心と体で子女を生まなければならぬのに、惡なる心と体をもって子女を生んでしまいました。これは、エバが神様の愛の心に従わずに、純潔な心と体を失ってしまったという意味でもあります。

●神様のみむねと人間の責任

神様は、アダムとエバに善惡の実をとつて食べるなと言わされました。そのようにしていたら、彼らは神様の愛で、完成された眞の人間になっていたはずです。

しかしアダムとエバは、神様のみ言を信じず、み言を守ることができませんでした。それで、堕落し、罪を犯すようになりました。誰に責任があるのでしょうか？

それは、人間自身に責任があるのです。人間が完成するか、完成しないかは、神様の能力だけにかかっているではありません。人間自身が責任を果たすか、果たさないかによって決まるようになっています。

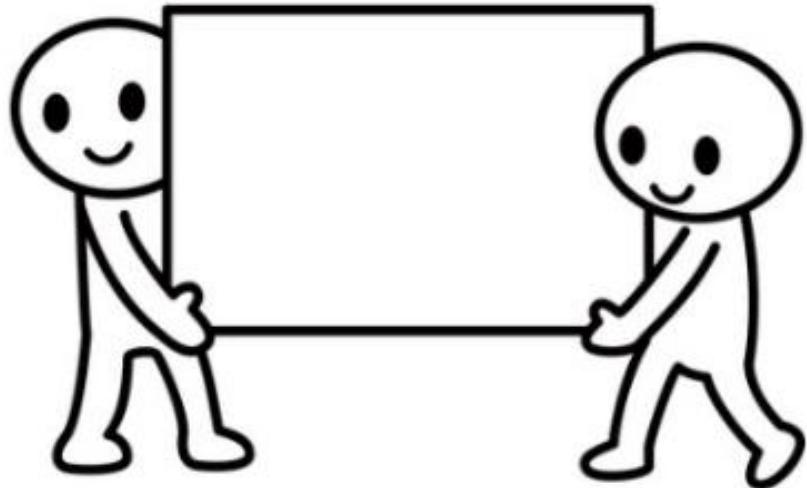
そして神様は、人間が自らの責任を果たすことにより、完成するようにつくられたので、その責任に対して干渉されませんでした。



なぜ、そのようにされたのでしょうか？なぜ、はじめから完成された人間につくられず、責任を
はたすことによって、完成するようにつくられたのでしょうか？

神様は、ご自身がつくられた人間が、自ら努力して神様の愛の心に似るようにされました。そうす
ることによってのみ、万物をきちんと治めて、万物の正しい主人になることができるからです。正しい
主人とは、自ら努力して、神様の愛の心を探して成長しながら完成する人間を意味します。それが
まさしく、私たちに責任をくださった神様の大きなみむねです。

～終わり～



引用文献：
『はじめての
原理のおはなし』